発行責任者

後藤正信

郡内学校数 小学校 23 校

中学校 8 校

PTA会員数

6,164名

と 話

てく

だ

さ

い し

まし

た。

0

6

か

b

の

ッ

セ

に

出

て

伝 あ

え IJ

ま が

ょう。」

の

うち

1=

とう、

لح

声

上益城郡 PTA 連絡協議会研修会開催







ت ح ŧ 再 か 研 城 お \pm の ら た 調 郡 に 修 方 か い 盛 が、 が出来まし で 整 延期と 予 ら Ρ 会 て の に 会のうちに終 す。 定 に し が 400 Т 令 大雨災 研 嘉 たされ て 名 実 和 Α 修 研 島 なり、 参 を 開 連 施 元 修 会 町 超 加 催 て さ 絡 年 会 害 は 民 *t*= い す さ 度 お 協 日 当 れ に の 会 たえる IJ た 多 は れ 初 ま 程 影 議 館 < ま だ 郡 た を 響 7 会

IJ で した講演会、 方 御 を た ま ず ク ス に 有 礼申し 携 皆 意 な テ マ れ 町 た。 義 ŧ 朩 わ 組 の マ つ な 充 事例の 上げ 堀 実 に 正 各 校 た 研 参 例 Ш 実 뱜 修 し し 発 加 ま 践 様 会 た い 表や の い す。 発 *t*= 内 に に ۲ 使 ュ 夫 だ 厚 準 な 容 即

> 各 町 か ら 0 報 告

> > て

いきたいと思い

ま

Μ

を Ν

忘 さ

れず

· 子 供

に メ

接

令

和

2

年

1

月

18

日

山 都

0

ま 呼 活 子 会 水 は、 し び 躍 育 た。 都 中 て し 町 山 令 て の シ 都 Р ン 和 研 Μ 町 ガ 元 Т 修 0 千 年 会 Ν Α 寿 を さ ح 10 連 苑 し 月 開 h 絡 に てご 催 を 23 協 て、 お L



そう IJ ず の Μ ま で 中 1) 0 す。 Ė す。 ぶ Ν さ ん 今 子 Μ ん 1) 供 ഗ 0 は じ に 中 Ν め は 子 に さ h ら 幸 そ 供 の せ の れ の 日 は お た

ろ

あ

害

で

の

活

動

を

行

な

話

0

支えて 残り とうございました。 年でし 本 ゎ 年 ず 都 い 度 かと 町 た。一年間 ただきな の 町 なり 山 Ρ 下 連 まし あり が 活 法 . Ъ 動 恵 が の ŧ

嘉 島 町

力 館に ただきまし 生をお招きし、 月 3 先 生 8 嘉島 年 半、 日 町は、 は、 題 (金) Į, 「防災と生きる さまざまなな 熊 原田 嘉島 本 令 ご 講 地 和 秀夫先 震 町 元 演しい ょ 民 年 IJ 災 会 11

ワー う 架 1 を作 し まず 本 クシ 話 の は、 る 木 合 の で 3 かを保 どうや ップ い グ 知 恵 ル 形 を 護 プで つ 式 絞 者 て に 担 て の



す。 を ら、 交えながら教えてい で に 役に立 得 ある先生か ご 豊 る 富 自 経 な経 つ知識を実 験 身 をさ ŧ 6 験を 九 れ 死 災 お て に た 践 害 持 い を 時 ち ま 生

لح

の

切

ž,

/١

ザ

人間

知

恵 ア

の

輪、

備えるこ

ま

た、

イスブレ

イク

ゃ

合

1)

楽

し

<

学

び

ま

きました。

て

いまし

た

熊

本地

震

から

ん

だ

防

ても真剣な

表

情

で

聞

か

れ

の

経 ド

験

談

に

には、

皆さん

ع

マ 大

ツ

プ

の

作 家

成 族

ゃ の

先

生



今 感

回

の

講 れ

演

で

ちも

し

つ

の

備

え

で

し

た 学

が

私

機

が い

薄 つ

つつ か少

ま

で起 な ま せん。 今 きて ゃ 災 本 当 ŧ 備 害 にそ は、 え お あ か しく の れ い ば つどこ ع 憂 あ

IJ

た。

える

ょ 識

い

機 高

会 ま

ح

なり

ま

 σ

意

が

ij

再 防 あ し

び 災 IJ ず

考

IJ IJ 自 だと思い た の 分のことだけ 今 方々を助 度何か起こっ · と 思 ま す。 い ける側 ま で し なく た た に 時 お IJ ll な 周 は

西

上

尚

美



わ

話

小坂小学校PT

令和2年3月19日発行 御 O 令

御

し ら で 少 協 開 議 年 にて、御 168 · 健 会 和 名 4研修: ··· 2 年 さ 全 カ の れ 育 船 1 チャ 成 会と御船 加 町 月 大会 者 内 P P T 25 が 日 あ が Т Α セ ンタ 町 青 連絡 IJ Α 合 か 同 ました。

演、事 し よるオー 船 例 中 発 プニング演奏、 学 表などがあり 校 吹 奏 楽 部



況

の

実態

調

の

講

ケー

ーげ、ア

会に

小

坂

小

学校ではスマ

木

郡

く し で 話や絵 ペペペペ 人子育て るいのちあること 佳 されました。 子 演「子ども 本 うたの 先 生が絵本や b がも 支援ワー 講 ん 師 大切 代 たらす の の 表 Ν 心 カ | さ ば の Р を 昔 髙野 0 ŧ を S 育 話 ズ 法 の 昔

(土)、 各校での 事例発 لح 木 倉 表 小 があり、それぞれ 取 学 組を発表され 校 Ρ Т Α か ら

と題し、母 が の 集まり、「子育てトー 母親部 の





した。 申 ました皆様方に厚くお にあたりご協力いただき 父さん達 しいご様子がうかがえ に活動されていました。お し 上 境 の 木 つくりのために、父親 倉 お父さん達が積 小儿 最 げます。 後に、 学校では、 の 繋がりが 研 修 会開 安 全 頼 極 ま ŧ 礼 催 的

御 船 町 甲 斐 真 樹

· 2 月 20 日 (木)、

ま

た

ス

1

レ

ス

O

益

益城町の七つの小・中学校 ま した。 令 和 2 年 親部会を開催し お母さんたち ク





の ビ、 い い の 方、 をしました。スマホの テ | ストレス解消法》と2つ 《 ス マ 我が マ 家の ホ・ゲーム・テレ について話 ル 作り等の ルール》《私 悩 し 使 合 H

IJ し の が 2時間でし 飛び ては ました。いろいろな 交いあ 様 Þ な っ と 解 消 法 い う が 間

す る ねと笑顔で終了しました。 のもストレ ス解消 だ

0 甲佐 町

修会を開 歯をやっつけろ!~」の 健委員会主催、「むし歯 目 Т 1 大作戦 A 連 甲 佐 令和2年2月 デ ホ ー 絡協議 町立甲 催しました。 ルにて、甲佐 !〜親子でむ 会·甲佐 佐 21日(金) 小 学 町 校 町 研 し ゼ 保 Р 多



りました。 取 組 平 成 ŧ 今 30 年 年 度 で 3 か 年 b の こ 目 ع

今年も、

学

校

Р

Т

Α

し歯をやっつける」

解 消 法 意見 に あ 関 き の 甲 ました。 取 佐 組 町 全 体 を 発 で 表

こうしてワイ ワ イ 話 を が ょ

町 作 本 良 ゎ か

新

肺

コ

ウ

1

感 型

染

拡 炎

大

止 ナ

の

た

め ル

予 先生に、歯についての 説明をして下さいました。 い をしていただきました。 保 てとても 防 む 健 し歯 会 学 治療 と は 何 校 を ゎ 歯 か ! 科 · と 歯 IJ か 医 ゃ の すく



な の ち ことができました。 大切さを改めて の歯の 健康を守り、「む

町の

子

供

の、 し それ て い た ぞ だ れ 大切だと思います。 で 学

取

IJ

組

W

で

い 甲

くこと

が 体

甲

· 佐町

岩

本

み

ゅ

き

校、

Ρ

Т

Ą

佐

町

全

取 いこと、 その って IJ IJ りまし 組 治 中で、 んで きていること 療 治療の 率が い る 親 少しずつ上 呼びか 子 家 歯 庭 磨 等 け き が 1= 多

編

集

後

記

表後には、甲佐 ? 早 町 講 志 学 つ 期 話 方 校 学校が 思います。 す。 の 上益城 ス 生活にご苦労の の

会員の

皆さまも、

日

Þ ま 中

ت ح

休校

ع

なって

い

郡

内

ŧ

全 防

て

の

小

期となり、 言えない状況でした。し 会が豪 も、 7 動を振り返って 終えることができました。 により、全ての活動を無 今 会員の皆さまのご協 りが 年度 月開 雨 とうございま の の 順調な活動 恐れに 催 本 予定 協 み 議 よる の ま 会 し ع 研 の は 延 修 て 活

. 原 の た ださい。 めでとうございます。こ ご家族の皆さま、ご卒業お 健 か らの 康 卒 で 業 を 楽 新 し 迎 える児 < い 学校生活 お ごし 童 生 を れ

実

感

す

歯の大切さ、予防治

た。